粟井地区タウンミーティング

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　平成２５年２月１日（金曜）

【市長】　皆さんこんばんは。今日は金曜日、平日でございます。お仕事があった方もいらっしゃると思いますけども、このように多数、雨の中お集まりいただきましてありがとうございます。もう月曜日になりますと、暦の上では立春ということで春になりますけども、今一番寒いころです。このタウンミーティングの開催に当たりましては、粟井公民館の樋野館長さんをはじめ、役員の皆様方にはご協力をいただきましてありがとうございました。さて、このタウンミーティング、私が就任させていただいてから始めさせていただいております。市役所に来ていただくのを待ってるほうが楽だと思います。そうではなくて、我々のほうから各地区に出向かせていただいて、皆さんの声を聞かせていただいたほうがいいんじゃないかという思いから始めさせていただきました。松山市は全４１地区に分かれるんですけど、公民館本館ごとに開催をさせていただいております。今回が３９地区目ということで粟井地区の皆さんには大変お待たせをいたしましたというところでございます。皆さん御存じのように、私実家は河野地区、横でございます。河野地区がどうも最後になりそうなんですけども、まあそんな状況です。またこのタウンミーティングですけどもモットーにしてるところが、やりっぱなしにはしない、聞きっぱなしにはしないというのが、この松山市版のタウンミーティングでございます。ここで皆さんの声を聞かせていただいて、聞いてますよっていうだけのほうが楽です。でもそれではやっぱりいけない。やりっぱなしにはしない、聞きっぱなしにはしない、ただのガス抜きにはしないというのがこの松山市版のタウンミーティングの特徴でございます。おかげさまで、やれることから、市政に反映できることからすぐに反映をさせていただいております。皆さん御存じのように、鹿島の渡し船の料金とか駐車場の料金を社会実験をさせていただきました。これも北条のタウンミーティングが起点になっておりますし、また立岩のタウンミーティングでは風早ふるさとめぐりを復活させてほしい、これも小学生の声でいただきまして、復活をさせていただいております。このようにできることからすぐに反映をさせていただいておりますので、思い切って前倒しをして、大体２年２カ月で全４１地区を回りきるという形で開催をしております。さて、このタウンミーティングですけれども、ここでお答えできることはすぐにお答えを差し上げます。また、持ち帰らなければいけないものも中にはあると思います。国と絡むもの、また県と絡むもの、また財政的な問題があるもの、そういうものはいったん持ち帰らせていただいて、そして１カ月をめどに必ずお返事をするというのが松山市版のタウンミーティングでございます。松山市の仕事というのは非常に幅広いものでございますので、それぞれの担当、専門家が来ておりますので、それぞれ自己紹介をいたします。

【市民部長】　皆さんこんばんは、市民部長の三好でございます。このタウンミーティングを統括しております。普段の仕事としましては、窓口における行政サービス、市民課でありますとか、パスポートセンター、市民相談課、２２支所７出張所、そういった窓口サービスのほかに、住民主体の地域におけるまちづくり、男女共同参画、人権啓発など、幅広い仕事をしております。今日はよろしくお願いいたします。

【保健福祉政策課長】　皆様こんばんは、保健福祉政策課長の津野でございます。国民健康保険、介護保険、高齢福祉など、保健福祉分野を担当しております。今日は皆様とお会いしていろんなご意見を聞かせていただきます。皆様の健康増進、そして福祉の充実に努めておりますので、本日はよろしくお願いいたします。

【都市政策課長】　皆さんこんばんは、都市政策課の白石と申します。都市整備部では道路また公園等の整備、また維持管理を行っております。本日はどうぞよろしくお願いします。

【産業政策課長】　皆さんこんばんは、産業政策課の大崎でございます。産業経済部では、地域経済の活性化、観光産業の振興、農林土木事業を展開しております。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

【教育委員会企画官】　こんばんは、教育委員会の渡部と申します。学校教育をはじめ、公民館活動など教育行政には普段から非常にお世話になっております。ありがとうございます。本日もどうぞよろしくお願いします。

【消防局企画官】　皆さんこんばんは、消防局企画官の岡本と申します。火災、救急、救助、そして地域防災、消防団を担当いたしております。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

【市長】　という各分野の専門家６名でございます。１カ月をめどにというのは、持ち帰らせていただいて、国に問い合わせる、県に問い合わせる、それで返事が返ってくる、松山市としての方針を決める、そして地区にお返事を返すという形になりますので、大体１カ月くらいをめどにさせていただきますけど、必ずお返事をさせていただきます。今日も粟井地区の魅力アップ、いい地域づくりに向けてのいい議論ができればと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

最初にまず魅力から話していただくのは、行政が主体になってその地区のまちづくりをしてしまったら、どの地区も同じような、金太郎あめのような地区ができてしまいます。それぞれの地区には歴史があって、特徴があります。そのよさを生かしたまちづくりができると、その地区はなお輝く。そしてその４１の集合体である松山市はより輝くということがいえると思いますので、一番その地区の魅力について知っているのは地元の皆さんです。まずは皆さんで認識を深めてもらうということで粟井地区の魅力から話していただきます。よろしくお願いいたしします。

【女性】　粟井の魅力について、日ごろ私の思っていることをお話させていただきます。まず一番目に、自然環境に恵まれております。文化、伝統、史跡、神社仏閣、句碑と興味をわかすものが数多くあります。二番目に、地域在住者、寛大な心をお持ちの方が多いということです。他地域からの転入者の受け入れと配慮がよくできています。また、児童、生徒、高齢者への思いやり、心遣いなどができて、地域への協力精神が旺盛です。三番目は学社融合ができていることです。理事会、小中学校、公民館、各種団体、サークルなどの連携がよくできて、ボランティア活動にも積極的なご協力をいただいております。また指導者がよいお手本となり若手指導者の育成にも配慮がなされております。その１つとして、公民館祭りや夏祭りには、サークル活動の方々のご協力をいただいております。また毎月第３日曜日に開催されておりますふれあいマーケット＆スマイルタウンショップには、地域でとれた野菜、果物、手づくりスイーツやきねつきもちなどの販売にもご協力をいただき、スマイルタウンショップでは学童による手づくりのお菓子や食品などの販売、つくり方などにもご協力をいただいております。子どもから高齢者まで多くの参加があり、地域の活力につながっていると思います。そして地域全体が安心して、安全の地として日々生活できる、そんなまちづくりを目指しております。本日は地域の生の声を聞いていただける機会を与えていただきましたこと、誠に感謝しております。ありがとうございます。

【市長】　もう網羅していただいたような感じでありがとうございます。粟井は特徴として、家が増えてるっていうところが大きいですね。今全体には人口減少社会っていわれる中で家が増えている、そして若いご家庭、お子さんも増えているというふうに伺っておりますので、それはすばらしいことだと思います。そういうところは大体、片やまちの中心地ではマンションでどんどん人が入ってくると、人のつながりがなくなってるんだと。「市長、本当人のつながりがなくなって、本当困っとんよ」というところが多い中で、今粟井はコミュニティ活動も盛んで、そういう地域のつながりがあると大きな災害が起こったときの助け合いにつながっていくので、子育てにしても介護にしても、やっぱりつながりがあるっていうのはすごく大事なことなので、粟井は非常に恵まれてると思います。また自然のことでいいますと、やっぱり自然はいいですね。海もきれいですね。海も白い砂浜で、我々ずっと地元にいると、白い砂浜裸足で歩いても気持ちがいい砂浜っていうのは当たり前だと思ってしまうんですけれども、同じ瀬戸内海でも、岡山は海水浴のできるところ行こうと思ったら車で１時間くらい走らないかん。海水浴場に行ったとしても、結構石ころの多い海水浴場ということですから、やっぱり美しい海がある、白い砂浜がある粟井は、本当に自然も恵まれてると思います。またこういうよさを生かしたまちづくりができればと思います。よろしくお願いします。

【男性】　私、現在光洋台に住んでおります。私がこちらへ住みまして、旧北条市の市長にいろいろ提案をしてまいりました。このすばらしい自然を全国発信しましょうと唱え続けてきたんですが、一向に耳を貸してくれませんでした。今から１７、８年前に企業誘致をしてほしいと言ったんですが、結局耳を貸してくれませんでした。これは今世界を代表するトヨタ自動車が来てくれとったら松山市に合併せんでもよかったなとよく笑い話で言うくらいです。この北条がだめで九州の苅田町に行きました。わずか２万２千のところが今は２８万になっとります。このようなことがありまして、私は常にこの北条の成功を陰ながら祈っておるわけです。この自然のすばらしさというのは、ここに生まれて住んでおられる方はほとんど気がついていない、これが当たり前ということですが、我々外から入ってくる人間はこんなすばらしい自然はないんです。これを全国発信していこうということで、今松山市はレトロタウン構想というのを考えておられるようですが、私は、西谷から波妻まで、遊歩道をつくってほしいと。遊歩道というのは大きなお金かかりません、１メートルの道をずっと。その右側に高縄山、左側に瀬戸内海見て、大体６キロから８キロぐらいの遊歩道になろうかと思うんです。これ１メートルの歩道ですから大きなお金かかりません。その両側に花を植えていただく。そして、都会からどんどん人を呼ぶために、波妻の出発点のところに、２０名から３０名の簡易の宿泊施設をつくっていただく。そこに駐車場を置いていただいて都会からどんどん人が入ってきます。そこに車を置いて往復していただく。そこに３泊なら３泊、４泊なら４泊としていただくことで、この地域の景観を全国発信していただきたいと考えておるわけです。私も実際に全部は歩いておりませんが、すばらしい景観でございます。これは全国発信をしていただいたら必ずヒットすると思います。以上です。

【市長】　遊歩道のご提案が出ました、確認させてください。波妻の鼻くらいまで、どこが起点とお考えになられていますか。

【男性】　粟井小学校からちょっと上がったくらいからですね。

【市長】　なるぼど、ルートとしてはすぐに海に出るんですか。

【男性】　山を、景観を見るわけです。

【市長】　なるほど、わかりました。これについては。

【市民部長】　タウンミーティング重ねますと、やはり皆さん地域に対する愛情からそれぞれ、北条の浅海ですと名石山、桑原ですと淡路ヶ峠、生石地区ですと垣生山、正岡ですと八竹山、このように皆さん地域の自慢があって、「いいところなんだけど道つくってくれんかな」って話がたくさんあります。行政もいろんな事業をやっておりますけれども、まずは地元の人が協力してやってもらって、そこのところで一定の動きができるといっぱい協力できるんです。例えば桑原の淡路ヶ峠は、学校のＰＴＡとか地域コミュニティとかそういうところで会をつくりまして、ずっと石段つくりまして、桜植えて並木でやっておるんですけれど、今行政が参加させていただいて、そこにいろんな協力をさせていただいております。こういうことでつくるときに一緒にやりますと愛着もできますし、自分たちの町並みということができると思いますので、ぜひノウハウもお伝えしますので、ぜひ地元の人にこういういいところあるんだというのをお知らせしていただいて、その上で行政にも参加せんかとお声かけいただいたらですね、いろんなことができると思いますので、そのあたりお声かけいただけたらと思います。

【市長】　地域の宝みがきサポート事業でしたかね、ご説明いただけますか。

【市民部長】　今、地域の宝みがきサポート事業といいまして、例えば道に限らず、神社仏閣でも、古墳でもいいですし、「この地域の中でこれが宝なんじゃ」「ここのところちょっと整備したいんじゃけど、ちょっとなんとかならんかな」とよく言われるんですけど、特に立札をつくるとか、修理するとか１地区３０万円までですけど、まちづくり協議会あるいは公民館のほうから、そういう補助する仕組みもありますので、このあたりも声かけしていただきたいと思います。それからもう１つ、公的な支援だけでなくて、銀行とか行政の外郭団体なんかがこういうことをやったときに助成しますよという助成の仕組みもお教えすることもできますので、ぜひいつでも取り組んでいただきたいと思います。

【市長】　相談するならどこの課ですかね。

【市民部長】　まず、市民参画まちづくり課に「こんなことしたいんじゃけど」と言っていただきましたら、庁内の調整させていただきますので、あっち行けこっち行けって言うんじゃなくって、行っていただくんだったら一緒に行くとかさせていただきますので、ぜひ市民参画まちづくり課に声かけいただけたらと思います。わからなかったら公民館のほうから声かけしていただいても結構ですのでよろしくお願いいたします。

【男性】　今ウォーキングロードをということでしたけれども、それにちょっと関連してくるんですが、私はサイクリングロードをぜひつくっていただきたいと。私よく自転車で走るんですけれども、走るところいっぱいありそうでないのがこの北条だと思うんです。本当に自転車で走ると危ない、例えば藤沢だとか、千葉のほうも知っておりますけれども、大きい公園があって、１０キロぐらいのサイクリングロードがあるんですね、自転車で走れると。大勢の人が自転車で走っておりますけど、ウォーキングロードもですけれども、サイクリングロードも考えていただけたらと思います。

【市長】　はい、これは私から。職員たちは手元に細かい数字が並んでおりますので座ったまま話をさせていただきます。私はできるだけ皆さんの顔を見ながら話したいので、私は話を立ってさせていただきます。サイクリングロードへの動きはもうすでに出ております。実は愛媛県が２０１４年、来年しまなみ海道を世界のサイクリングの聖地にしようということで動いております。そういう中で愛媛県が「愛媛マルゴト自転車道」というのを提唱しておりまして、松山市もその連携の中でやっていくと。私も去年、台湾の世界最大の自転車メーカーのジャイアントの会長さんと一緒に、県庁から道の駅の風和里まで自転車で走らせていただきましたけれども、風和里には、ああいうサイクリングの自転車ってスタンドがないんですね、重くなるので。自転車止めるところに苦労するんですけれども、さっそく風和里には、１５台分の自転車ラック、自転車を止めるところをつくらせていただきました。またこれからもパンクしたときの修理器具とかも配備していこうと思っておりますけれども、国道や県道が大体北条の道はなりますので、国や県とまた協議しながらマルゴト自転車道進めていこうと思いますのでよろしくお願いします。

【男性】　お願いと提案を２つお願いしたいんですが、初めに宅並山になぜ登り始めたかといいますと健康と歩き遍路のために登り始めたんですが、その後、県の森林環境税を１４年から６年間いただきました。登り始めてよかったことは人との出会いがすばらしいことでした。その後、それより先に小川地区では平成６年に登山道の整備と朽ち果てたお宮の奥の院の整備、そして年に１回役員が草刈りをしていたんですがそれではあまり整備は進まず、私が登り始めてから１カ月くらいしたころからきれいなところへ行きたいということで、剪定のこと剪定ばさみ一人で登って掃除をし始めたのが現在に至っております。その間、粟井公民館とか区長会、粟井小学校の皆さんにお世話になりまして、粟井小学校では平成１６年から３年生の総合学習に利用させていただいております。そして市の広報でも取材していただきまして、粟井地区以外の方が非常に多くなりまして、道路の案内標識を設置していただいたらと思います。そして次ですが、私が登り始めたころ当初の予定はミニ登山、ミニ公園になりつつあるんですが、私の夢は粟井に城跡が３つあるわけです。横山城へは粟井から登る道の整備、これは公民館で声をかけていただき皆さんのお手伝いで登れるようになりました。苞木城から高縄山へは登山道は苞木の方が整備していただいてます。これで私の夢はかなったんですが、この後元気な間は宅並山に登っていきたいと思っています。この後誰かお手伝いしてくれる人ができると思っています、また子どもたちにも期待しております。そして宅並山のボランティアの募集を１０年間になるんですが、年に５回程度登山道の整備と下草刈りをしています。そして年に１回植樹といった行事もしております。そのときには１００人から２００人程度登ってきます。これ思うとお手伝いしようと思ってくれている人は非常にたくさんおるんじゃなかろうかと思っております。そして地区には定年退職された方も非常にたくさんいらっしゃいます。そして健康のために運動している人、歩いている人非常に多いです。ごみもたくさん捨てておりますので、ごみ拾いなど歩きながらできるボランティアをその運動に結びつけてはと提案したいと思います。以上です。

【市長】　宅並山非常に頑張ってくださっているのはよくよく聞いております。桜の植樹ですとか、登山道の整備ですとか、展望台もありましたですかね。すごく動いてくださっているのはよくよく聞いております。これもまさに地域の宝みがきですよね。

【市民部長】　地域のアドバンテージ、魅力を生かした取り組みだと思うんです。地域によっては下草刈りされとるところ、ちょうど前行った和気でもそういった提案がありまして、「経ヶ森から高浜に抜ける遊歩道すごいところがあるんだけど、非常に名所、古い史跡があってそこのところ歩きながらっていうことでやっておるんだけど、下草を刈るのに苦労しとる」というところがありまして、そういう地域の人を集めるということが一番難しいと思うんですね。そういう同じ志を持った人が集まるといろいろ解決できると思うんです。例えば金銭面でいいますともちろん行政からの補助の仕組みもありますし、公民館のオンリーワン事業なんかと連携して一緒にやるとか、それから民間の金融機関の助成制度というのもありますし、今言った案内標識とかいうのは具体的に場所見せていただかないとどこまでできるかわかりませんけれども、一回現地なども見せていただいて、どういう状況か見て、何かの対応ができないか検討はいたしますけれども、まず一番大切なのは、そういったところを地域の人で考えて、みんなで協力できる仕組み考えるのが一番大切と思います。その上で行政ができることはどこまでできるかしっかりと考えていきたいと思います。また後ほど現地同行させていただくということで構いませんでしょうか。

【市長】　これも担当は市民参画まちづくり課ですか。

【市民部長】　これは都市整備部か私のほうでお伺いしますので、よろしくお願いします。終わってからもおりますのでお声かけください。お願いします。

【男性】　先ほど市長さんが、人口減少社会の中で粟井地区は人口が増えていると話されましたが、その中でも一番人口が増えているのは和田ではないかと思っております。それで高齢者の交流の場としての集会所の開放及び整備、有効活用についてご説明をさせていただきます。現在、和田町内には約２００戸くらいの世帯があります。最近急速に住宅が増えており、子どもさんのいる若い夫婦も増えております。幼稚園から中学生まであわせると約１２０人となっております。このような状況の中、町内会の喫緊の課題は従来から住んでいる方と新しく入居された方たちとの交流を円滑に図るということにあります。町内会の行事として水路清掃とか市民大清掃とか秋祭り等々交流の場がそれなりにありますが、日にちの限られた行事となっております。そこで住民の交流を拡大、拡充するために、また１１５人おいでます高齢者の方を結ぶ１つの方法として集会所という場を提供し、いつでも集会所に行けば話し相手がいるという仕組みをつくり、管理運営をしていったらどうかと考えております。始めるにあたってはまだまだ時間が要りますが、町内会長をはじめ数人の方とはそれに向けての地ならし的なことは始めているところです。今までに培ってきた知識や経験に花を咲かせ、ゆくゆくは子どもたちや若い親御さんに伝えていく、例えば野菜、花づくり、お飾り等のわら細工等々あると思いますが、また伝統文化の継承も行っていけば、地域の交流や活性化に寄与するものと考えています。さらにそういうことを深めていけばいざというときの自主防災活動も機能的に働くものと考えております。しかしながら、このような集会所の利用を進めていくと気になることは、畳とか床等の傷みも激しくなったり、エアコン等の備品の整備も必要になってくるものと考えております。今後いろんな地域で集会所の有効活用が図られていくときには、そういう修繕等しなければならないことが多く予想されますので、ご支援とご協力をお願い申し上げまして説明を終わります。以上です。

【市長】　はい、わかりました。皆さんにわかりやすくご説明をいたしますと、公民館の本館というのと公民館分館、または集会所というものがあります。この公民館本館というのは市のお金ですべて建設をするものですけども、公民館分館、集会所はまたちょっと違う範囲ということになります。ここは市民部長お願いします。

【市民部長】　今の発言の趣旨には全く賛同をいたします。地域の共有施設を有効にまちづくりに活用していただきたいと思います。そこで北条の集会所について、市長から話がありましたとおり集会所は、旧松山市では本館の下の本館活動を支える分館組織という意味合いが強かったんですけれど、合併されるときに、ただ分館というのはどうしても公民館活動といういろんなカリキュラム、社会教育活動をやらないといけないということで、合併するときにそういう堅苦しいことよりも、従来の北条の集会所としてのよさを活用したいんで分館にはなりませんということを決意されて、行政の所管する８０余りの集会所については従来通りの使い方になりました。そのかわり使い道としては、それこそ冠婚葬祭も含めましてお祭り、そういうことまで自由に使える、行政から干渉なく自由に使えるということだったんですけれども、問題は、自由に使うんだったら従来通り自分のお金で修理してくださいということでやっておったんですけれども、そのままだったら使う人、このまま古い館もあるんで修繕したいけどなかなか経費出すの大変だという訴えがございましたので、３年前に制度つくりまして。ちょうど市長の就任のときに了解をいただきまして、そのやり方を変えたいということで、そのかわり２分の１行政が助成をしますのでという形で、今順番に直していってます。ですから一定の最低限の額っていうのはありますけれども、順番に緊急を要するところから、地域の声を聞きながら優先的に直していっておりますので、そのあたりは「集会所が壊れたな、何とか直したいな」というときには市民参画まちづくり課にお声かけいただいたらと思います。活動についても、従来通りの活用方法で地域のコミュニティ活動、公民館としての活動、そういった形で十分に活用していってもらえればと思います。以上でございます。

【女性】　本日は市長さんをはじめ関係各位の方々がこの粟井の里へお越しいただきまして本当にありがとうございます。さっそく児童館の建設、設立につきましてお尋ねします。近年は松山市のベットタウンとして住宅の建設が進み、旧北条地区の中でもこの粟井は人口が増加し、子どもの数が増えて大変うれしいことだと思っております。子どもは未来を担うかけがえのない宝です。子どもたちが夢と希望を持って健やかに育っていきますよう願ってやみません。そのためにも児童館のような施設で０歳から１８歳まで、子どもが集い、親が集い、高齢者が集い、また地域の者が集い、多くのことを人やふれあいの中でお互いに学んでいきたいと思います。しかし北条地区には児童館がございません。今までの要望ではかないませんでした。そこでとりわけ子どもの人口が増加しますこの粟井地区に児童館の建設、設立を切望いたします。どうぞお考えをお聞かせください。

【市長】　わかりました。児童館の要望、北条地区の方からよくよく聞いております。この北条地区というのは、児童館を建設する有力な候補というのはもう間違いのないところです。現在事務方が検討をしておりますので、もうしばらくしましたら結論が出ますので、今しばらく待っていただいたらと思います。

【男性】　今の児童館の件ですけれども、合併協議会の中に児童館の建設が取り入れられませんでした。今言われましたが、児童館はずっと１４、５年前から北条市に建ててほしいという要望から始まって、合併協議会の中に入りませんでした。そういういきさつもございます、北条地区にぜひお願いしたいと思います。

【男性】　本日は愛護班の立場から３点ほど考えておったんですが、まず１点、これは回答をいただけるかどうかは別といたしまして、我々の子どものころはいろいろな空き地、広場がございましてそこで遊びました。遊びの中で社会のルール、先輩からいろいろ教えていただきまして、けんかもして、殴ったら痛いということも学びました。今の子どもはそういう遊びがないので家の中でゲームしています。ゲームはいくら殴っても人を刺してもリセットできます。そういうことが常識的になって、今いろいろな事件が出ております。ですからそういった遊び場を復活させていただきたいと思います。遊び場、松山市も運動をする施設もあるんですけれども、たとえばキャッチボールをしたらいかん、危ないから転んだらいかんから下を芝生にするとか考えていただいておりますけれども、少々けがをしていいと思います。今の子どもは転び方を知らんので顔からつっこんで顔をけがする、我々のころはそういった遊びの中で転んだら手をついて受け身みたいなこともその中で学んでおったんですね。少々ひざをすりむいたりしても死んだりせんと思うんです。そういうようなことをできる場所を復活していただいたらと思います。私も教育現場におります関係で、勉強ばっかりしよったらどっかで若い子は発散させないかん、発散させる場をつくってやらないとどっかで爆発します。そういった体を動かして発散できる場所絶対必要だと思います。私教育現場におりまして、特進というのをつくったんです。そのときはその特進は部活は禁止ですというふうにしてつくったんですけれど、数年して部活をさせないといかんようになりました。やっぱり若い子は運動せんと爆発してしまう。ですからそういった昔のドラえもんの広場構想というのを打ち出した人もおるようですけれども、そういったことも考えていただけたらと思います。よろしくお願いします。

【都市政策課長】　ただいまの公園、遊び場づくりということで公園的なところだとは思いますけれど、皆さんの身近な公園につきましては、今松山市におきましては国の補助制度がない関係で、新たに整備するというのは非常に難しいということがございます。ただ、今おっしゃられましたように、具体的に公園のここら辺でこういうようなことを考えているんですよということがございましたら、また教えていただいて検討等させていただきたいと思いますので、後ほどまた教えていただきたいと思います。

【市長】　粟井地区には何カ所くらい公園がありますか。

【都市政策課長】　今粟井地区では、１４カ所くらい公園がございます。開発でつくった公園という面積の小さい公園もございますし、かなり大きい公園もございますので、そういったところもまた活用していただきたいと思います。

【市長】　ちょっと私のほうから。今、国の補助とかいう話が出ましたので、松山市の財政についてご説明をさせていただきます。タウンミーティングで話していろいろな方から要望をいただくんですけれど、私も人間ですので皆さんから要望をいただくと「わかりました、それやりましょう」「わかりました、それやりましょう、これもやりましょう」って言えたほうが私も気は楽です。でも今そのような状況には、日本全体そうですし、どこの地方自治体もそのような状況ではないんだというのを説明させていただきます。まず国の話をすると、国は今１千兆円の借金を抱えているといわれております。その国から地方交付税交付金とか国庫支出金という形で地方にお金が配分されてきます。大もとの国が１千兆円の借金を抱えている。日本の人口１億人ですから、１千兆円割る１億人で１人頭どれだけの借金を抱えているのかっていうのは大体推測はつきます。大もとがそんな借金を抱えている。どこの地方自治体も、松山市比較的いいっていわれてますけども、どこの地方自治体も厳しい財政難です。松山でいうと、歳出で一番大きな割合を占めているのが民生費です。いわゆる福祉のお金ですけれども、４０パーセント占めております。あと教育費とか土木費とか衛生費とかいろいろあるんですけれども、一番大きなウエイトを占めているのが民生費です。この民生費が１年だけで松山市だけでどれだけ増えたかというと５０億円増えたんです。福祉にかかるお金が５０億増えた。先ほど申し上げたように国から配分されてくるお金がこれから増えるとは考えられないので、５０億どこかで増えたなら５０億どこかで絞らないと財政のバランスは悪くなります。そしてこの民生費の中には生活保護費が含まれるわけですけれども、これは生活に困窮されている方にとっては非常に大事なお金です。セーフティネット、すごく大事なお金です。この生活保護費が松山市だけで、１年だけで１５億円増えたんです。これは松山市としても生活保護費が圧迫することがあってはいけませんので、例えばケースワーカーが一緒にハローワークに行くとか、できるだけジェネリック医薬品を使っていただくとか、いろいろ適正化は講じているんですけれども、それ以上に経済の状態が悪いので、生活保護費を申請されている方が多い。松山の特殊事情として、松山は愛媛の中で突出して大きいですよね、５２万、愛媛の中の３分の１の人口を占めてますから、東予や南予の方が「松山に行ったら何とか仕事があるんじゃないか」といって来られる。そして病院も多いですから松山に行ったら高度なサービスが受けられるということで入って来られる方もいらっしゃるので、生活保護費が１５億増えているっていう現状があります。１５億増えたのならばこれもどっかで１５億絞らないと財政のバランスは悪くなる。私が例えば市長の人気取りで「これやってよ、あれやってよ」「はいはい、わかりました」、以前の高度経済成長の時代だったら日本の経済もどんどんよくなっていましたから、いろんなものが箱物もつくれたと思うんですけど、今それをやってしまうとそれは将来の子どもや孫にツケを残してしまうことになってします。やっぱりものを建ててしまうと最初の費用も要るし、「はいやめます」「はいやめました」っていうのは言えませんから、維持管理をずっとしていかなければいけませんので、そのお金を考えなければいけない。じゃあこのタウンミーティング、皆さんから要望は言われる、苦しい思いをする。「タウンミーティングせんほうがいいやないか」って言われる方もいらっしゃるんですけれどもそうではなくて、皆さんの声をきちんと伺ってないと優先順位を間違えてしまいます。それは行政としてはやってはいけないことなので、できる限り皆さんのところに足を運ばせていただいて、お声を聞かせていただこう。もちろん財政が厳しいからといって何もしないわけではないんです。例えば松山外環状道路、松山インターチェンジと空港の間３０分もかかるんです。そんなのは全国の２４地点で調べたんですが、松山とあとの３地点は北海道の３空港だったんですね。松山と広大な北海道が一緒の状態になっている。つまり、松山インターチェンジと空港の間は時間かかりすぎているので松山外環状線をつくっている。またＪＲ松山駅周辺の整備もしないといけませんからＪＲ松山駅の整備もしている。何にもしないのじゃなくってやるべきことはちゃんとさせていただいておりますけれども、そのような財政状況ですので、なかなか何でもやるという状況ではないということをご理解いただけたらと思います。というとその後大体手が挙がりにくくなるんですけど、それは気にしないで言ってください。

【男性】　今の市長さんの財政のことを聞いてですね、黙っとこうと思っとったんですけど言いたくなったので手挙げました。まず、粟井地区の高齢者の福祉、今急ピッチで進んでおります。６５歳以上が２６パーセント突破という話も聞いております。そういった中で、今粟井地区だけの問題じゃない基本的な問題だと思うんですけれど、高齢者が増える中で一番心配するのは私たちの立場上孤立死ですね。これがやっぱり一番心配です。なぜ心配かというと、地域の状況を見てみますと粟井地区も一緒に地域の共同体というか絆というか、こういった無縁社会が、やはりとくとくと進んでいるというのは事実だと思うんです。その証拠に祭りの行事、みこしとかだんじりとかに出てくる人、やっぱり若者が少ない。これ見たらわかるわけですが、そういった中で高齢者が孤立していく立場はこれから深刻じゃなかろかなと思います、これが１点。もう１つは財政の問題ですけれども、子は親に頼る、親は高齢者に頼る、もしかしたらじいちゃんばあちゃん銭がないかもしれんですね、その分国に頼る、あるいは地方公共団体に頼っていく。つまりろくに働きもせずにろくに税金も納めずに、それでいて、働かずに飯が食える、生活ができる、いわゆる人権とか生きる権利とか、あるいは民生とか福祉とかこういうきれいな言葉に乗ってですね、頼っている人間が非常に増えているんじゃなかろうかと思うわけです。やはり私はこれが一番怖い。これは粟井地区だけの問題じゃないんです、一般論ですよ。そういった中で、生活保護費の問題、私古い人間でちょっとわからないんじゃけれども、生活保護、県で２万１千ぐらい、松山市が１万１千くらいじゃなかろうかと、私つかんどるんですが、そんなもんじゃないですか。それから考えたら、松山市の人口は県で３４、５パーセント、生活保護費が５５パーセント。異常じゃないかと思うんですね。そしてさっき言った生活保護費で１年間１５億円増えておる、それからよそから入ってきてという分でも、あまりにも松山市が多いんじゃなかろうか。昨年、生活保護の不正受給の７０パーセントが松山市じゃった、愛媛新聞の１面に書いておりました。こういった問題で、私はどういう生活保護の認定措置をするのかちょっとわからんのじゃけれども、要するに先言ったことをひっかけてアリとキリギリスのキリギリスが何ぼでも増えていくんじゃなかろか、これが非常に怖い気がするんです。民生費が非常に増えて４０パーセントというのはわかるけど、障がい者の方とか必要な高齢者の方には何ぼでも落としてもいいけど、生活保護費、今国が問題にしておりますけれども、松山市もあまりにも多いんじゃなかろかと疑問を持っておるんです。ちょっと答えてもらいたいと思います。以上です。

【市長】　はい、孤独死を防止する仕組みとしては松山市見守りネットワークというのをつくらせていただきました。これはよく取材もしていただきますので、見ていただいたこともあるんじゃないかなと思うんですが、例えば郵便局、銀行、生協の方、そういう方よく家に訪ねて来られます。例えば電気が昼間やのにつきっぱなしになっとるとか、新聞がたまっとるとか、そういうので異変を見つけたらすぐに連絡をしていただこうという松山市見守りネットワークをつくりまして、今１３業者が参加してくださっています。こういう仕組みもできておりますので、もともと孤独死が去年の１月、２月とかにありましたので何とかできんのかという仕組みをつくりましたので、これはそういうことでケアしていこうと思います。不正受給の７０パーセントが松山というのはわかりますか。

【保健福祉政策課長】　生活保護の人数ですが、平成２４年４月で生活保護受けられとる方が１２，２６６人でございます。先ほども市長から松山市の生活保護が伸びた理由につきまして説明がございました。これにつきましてはどうしても松山市の場合は病院も完備されている、就職地もあるだろうということで来られる方ももちろんおられます。その中で毎年、医療費の額が９６億円、２３年度もかかっております。これ約９．３パーセント、毎年伸びを示しております。生活保護を受けられる方は医療費が無料になりますので、自分でお支払いということがなくなりますので、先ほど市長が申しましたように適正な受給をお願いする、できればジェネリックの後発剤をご利用いただくとかお願いはしているところでございます。こういう形で医療費の額を抑えることによって生活保護費の額も抑えられてくるものと考えております。それだけでなくて、就労にいかにしてつなげていくか、生活保護を受けられている方の中で働く意欲のある方、または働ける方については就労支援プログラムの中で一生懸命就労につなげております。

【市長】　これさまざま適正化に努めております。例えば医療関係の方にも入っていただいたりとか、警察関係の方にも入っていただいたりとか。私就任してから民間では当たり前だったんですけれどもコピー用紙を両面使おうというのをやり始めました。これで年間で３００万円のお金をつくることができました。当然松山市役所は個人情報を持ってますので、個人情報が漏れるような両面コピーはしてはいけませんけれども、そうやってして爪の先に明かりを灯すようにしてお金をつくってきているんです。ですので当然生活保護費が圧迫するというようなことは許されません。そして生活保護を不正に認めているというようなことがあれば、それは不祥事として当然叩かれますのでそういうことのないようにしっかりとちゃんと判断しておりますのでそこはご安心ください。これからもいろんな方策で適正化しますのでよろしくお願いいたします。

【女性】　これは私の個人的な考えかもわかりませんけれども、旧北条地区の包括支援センターが難波のほうにありますけれども、何であんなに不便なところに包括支援センターがあるのか、できたときから疑問に思っております。北条地区の１つの機関ですので、支所なんか結構空いているんじゃないかと思うんですけど。そういうところに一緒にしていただくのは行政のあれでできないのかもしれませんけど、それを１つと、先ほど言われましたジェネリックの医薬品ですけれども、高齢者は本当にたくさんお薬をもらっております。もっとジェネリックの薬品を使うような啓発をもっと徹底していただきたいと思います。以上です。

【市長】　確かに松山市の地域包括支援センターの北条は下難波にあります。粟井からは確かに遠いですよね。これどうしてそうなっているのか。

【保健福祉政策課長】　地域包括支援センターはちょうど市内に10か所設置しております。地域包括支援センターの立地につきましてはその方面をカバーできるという形で設置をさせていただいておりますので、中には、遠い方近い方いろいろおられると思います。ただ地域包括支援センターの業務といたしましては、皆さんから来られることを待ってるだけではなくて、皆さんからのご相談とかご質問に応じるために、訪問させていただいております。もしお電話いただいてご相談することがあれば、ご自宅にも訪問させていただいて相談とかいろんなサービスとか対応することができますので、ご遠慮なく相談していただければと思います。

【市長】　訪ねるというのが基本なので遠慮なく電話していただいたらこちらのほうから出向いていく形ですので、遠慮なく電話していただいたらと思います。

【保健福祉政策課長】　それと、先ほどのジェネリックの問題ですが、ジェネリックの問題につきましては皆さんに強制するというものではございません。ジェネリックを生活保護を受けとる方に選んでいただければ生活保護費における医療費が抑えられるんじゃなかろうかということです。皆様方にジェネリックをお願いするとかそういうことではございませんが、内容的には保健所のドクターとかの話を聞くと効き目としては同じなんだけれどもという話がありますが、これは決して強制するものではございませんので、皆様方に新しいお薬を使っていただくとかそういうのはよろしいかと考えます。

【市民部長】　今テレビのコマーシャルでやっておりますけれども、今国でも医療費を抑制するところから、効果が同じ薬だったらジェネリック使ってみたらどうですかというコマーシャルやられてます。あとは一般の受診する方がもちろん安い薬ですと費用負担も安いですから、そのあたりは受診される方が選択するということもこれから広がっていくのではないだろうかと思っております。

【男性】　いろいろこう工夫してやっているのになかなかみんなが元気にならない、なんか発想の転換が要るのかな思っているときに去年の８月２５日ですが、鹿島でフォークジャンボリーがあって非常に熱気があって、見てる人もやってる人も、シンガーソングライターみたいなアマチュアですけれども、あの熱気はすごいなと。これは地域が元気になるのには本当にいいなと、粟井は近いですから。それでぜひああいったような仕組みと仕掛け、それから運用についても新しい社会インフラという観点から、日本の国の予算にどういった枠があるかというのは気になるところですが、やはりコンクリやハードも大事なことは間違いないんですが、むしろそれをどう使っていってどういう仕組みでやっていくか、なんか建物だけができて最初のうちはこけら落としで市長も来られてやるんだけれども、もう１年もたつと閑古鳥も鳴いている。だからやっぱりそこらあたりの仕組みと仕掛けと運用というのを行政と民間が一体となって継続していく。このフォークジャンボリーというのは１つの典型じゃないかと思いますので、ぜひご検討いただきたいというように思います。

【市長】　はい、わかりました。ありがとうござます。８月に鹿島に見にいっていただけたみたいでありがとうございます。鹿島で、フォークジャンボリーといって歌で地元を盛り上げていきましょうっていうイベントをしまして、おかげさまで暑かったんですけれども多くの方が来ていただきました。歌っていうのはまちを元気にしてくれます。いい雰囲気を醸し出してくれます。例えば大晦日の五木ひろしさんが歌ってくれた「夜明けのブルース」。松山市の二番町が舞台になりましたけれども、皆さん笑顔になりましたでしょう。松山が舞台になった歌を歌ってくださった、松山はそれで元気になったわけですよね。また松山が舞台になってできた歌は「この街で」っていう曲がありますけれども、あれも愛唱歌として大分広がっています。私就任させていただいてからＪＲ松山駅の列車の到着メロディ、そして伊予鉄の松山市駅の列車の出発メロディとして採用されています。いろいろこの歌を使ったまちづくりやってまして、松山市の歌がごみ収集車の曲として流れるようになりました。これ実は、昔はごみ収集車の歌は赤とんぼの歌が使われていたんですけれども、朝の収集なのになぜか「夕焼け小焼けの赤とんぼ」が流れてるんですね。これなぜかというと、昔はごみをかごのようなもので出して、「収集が終わりましたよ、かご下げてください」っていう「一日が終わりましたよ」っていう意味合いで赤とんぼの曲が流れていたんだそうです。ごみ収集車ってメーカーが少ないですから、あるメーカーが赤とんぼの曲カセットテープ入れてたらそれが全国に広まっちゃったというわけで、あんまり赤とんぼの曲に意味がなかったんですね。ごみ収集車に自分のところならではの曲を使っている市が全国の中でいくつかありまして「これやってみよう」ということで松山市の歌を今オルゴールの形で流させていただいてますけれども、松山市の歌は実は松山市が９０周年のときにつくった歌です、３４年前につくった歌ですけれども全然歌われてなかった。もったいなかった、「明るい日ざしのそそぐ町～」、ごみの収集朝ですけれどもちょうどぴったりですよね、歌詞見てください。今からの時代に大事なことがすごく歌われているんですよ。知ってほしいっていうことでごみ収集車の曲に採用させていただきました。実はあの曲をつくったのは芥川也寸志さんといいまして、芥川龍之介さんの三男です。小鳥の歌とか赤穂浪士のテーマとか八墓村のテーマとか八甲田山のテーマとかつくられた方なんですけど意外と知られていなかったので採用していただきました。今歌のまちづくり結構してますので、これからもまた進めていきたいと。あと、皆さん２月の中旬から、松山のキャッチフレーズを決めましてロゴマークを皆さんに選んでいただこうというプロジェクトを始めます。みんなで松山を盛り上げていきましょうや、っていうプロジェクトをやりますので、好きなロゴマークを選んでいただけたらと思います。さまざま都市ブランドっていいますけれども、ほかの地域との競争になりますので、都市ブランドますます上げていきますのでよろしくお願いします。

【男性】　この粟井地区は先ほどからも話題にたびたび出ておりますけれども旧北条市の中でも唯一人口が増え続けている地区です。ほかの地区は人口が減少しております。これは粟井地区は松山市の市街地にもっとも近いということ、本当に豊かな自然に恵まれていること、ＪＲの駅が２つもあるという交通の便等々がありまして本当にこの粟井地区住みよいところだと思います。この恵まれた住環境の特性を踏まえて、この粟井地区を松山市のベットタウンとして生かしていくことが松山市の発展ひいては粟井地区の活性化につながるんじゃないかと考えております。そこで現在市街化調整区域とか農業振興地域とかで規制されていて家が建てられないところがずっとありますのでそういうところをなくして、粟井地区はどこでも家が建てられるという住宅特区のようなものにしていただくことはできないでしょうか。少なくともバイパスから西側の地区はそういう市街化調整区域とか農業振興地域とか外していただいて、もっともっと家がどんどん建ってこの地区が活性化する一番もとになるんじゃないかと思いますので、この点ひとつよろしくお願いしたいと思います。

【都市政策課長】　松山市では今適正な土地利用を行なうために市街化区域また市街化調整区域いう形で区分しております。今言われましたように市街化区域はやはり市街化を計画的に整備促進する区域、また調整区域におきましては開発とか建築行為を抑制する区域になってます。それでベットタウン構想、市街化区域を広げてほしいということなんですけど、松山市現在約７千ヘクタールくらい市街化区域がございます。その中で約１割弱５５０ヘクタールくらいまだ農地が残っております。その市街化区域内の農地をまずは活用しなければならないということで、市街化の線引きを１９６の新しい道まで広げるのが非常に難しいというのが現状です。また市街化区域編入するための条件とかいろいろございます。それは土地区画整理事業をするとかいろんな条件はございますが、今回の粟井地区の線引きの変更は非常に困難であると考えております。

【市長】　私のほうから松山のまちづくりについて説明をさせていただきます。よく少子高齢化と申します。少子でいいますと子どもの数が少ない、誰しも税金を払うのが好きだっていう人はいないと思います。子どもが少ないとつまり成長して働いて税金を払ってくれる方が少なくなるんだということを意味します。行政からすると税金いただかないとまちづくりはできないです。少子ですから子どもの数は減っていく。片や高齢化ということは運動能力も落ちていく、視力も落ちていくということで免許の返上もこれからは考えないといけない。そういう中で車がないと生活できないところだと困るんですね。でもおかげさまで松山は公共交通機関が残ってます、路面電車があります、郊外電車もあります、ＪＲもあります。これすごく大きかったことなんです。そして松山は平坦部が多いですね。そして都市の真ん中にお城山を中心として県庁も市役所も近い、まちの真ん中にあります。大学もある、病院もある、銀行もある。都市の機能が中心部にまとまってるコンパクトシティという非常に将来のことを考えると、さっき言いましたように高度経済成長の時代やったら幅広い道路をどんどん郊外に延ばしていく。下水道をどんどん郊外に延ばしていくということができたんですけども、今からは人口が減っていく社会になります。それを考えると都市の経営コストとか環境への配慮のことも考えると、中心部に集めていくような流れになると思います。そう聞くと、粟井に住んだらいかんということじゃなくて、お団子と串の考え方というのがあるんですけども、串は公共交通機関、郊外電車とかＪＲだと思ってください。松山の中心部は大きいお団子、路面電車ですね。このあたりに人が住んでいく、商いをするところもこの辺に集約されていく。そして各地各地には駅がありますね。駅の周りに土地を開発されて、こういう形で小さなお団子が各地各地にできている。粟井駅の周りに家が増えている。柳原のほうにも増えていくとか北条駅のほうにも増えていく、こういうお団子と串の考え方が松山のまちづくりができるので、自然に粟井駅の周辺にもこれから人が集まっていくのかな、公共交通を中心としたまちづくりが、環境への配慮も、また都市の経営コストから考えても一番松山にふさしい、こういうまちづくりになるんじゃないかと考えています。

【男性】　粟井地区自主防災連合会として粟井の安心安全を守ろうということでみんなと協力してやってます。災害が予想されるときに迅速確実な連絡がないといけない。避難情報連絡システムも考えていただきたいと思います。南海トラフ大地震の津波や集中豪雨が起こりますと逃げるが勝ちだと東日本大震災の教訓ですね。このような情報は今は防災無線で放送されると聞いてます。しかし防災無線で全戸への確実な避難情報はまずだめだと、特に逃げないかんときは大雨が降っている。そういうことで粟井地区は鳥生災害対策指導官のもとに地区別のハザードマップをつくり防災マップをつくってますが、粟井の山間部は土砂災害に対して一時避難する場所がありません。それでいち早く粟井小学校に逃げるしかないかなということで全戸への情報伝達をどのように進めていかれるのでしょうか。他都市では個別の緊急告知放送システムというのが確立されとるところは全国で１７地区くらいあります。松山についてはそういうお考えがありませんでしょうか。これを１点ひとつお願いします。

【消防局企画官】　言われましたとおり、松山市では平成２３年から２５年にかけてデジタル防災行政無線を整備しております。その中で北条地区につきましては８０基の整備を予定しておりまして、粟井地区が１７基整備の予定ですが会長さんのご尽力によりまして１基増設をさせていただきます。これは大西谷に防災行政無線を１基増設いたしまして１８基といたします。それと牛谷の災害時大雨時に孤立地区になるところですが、ここには戸別受信機といいまして、携帯用の屋内にいても受信できる装置をここの２世帯に１基ずつ配備するようにしております。防災行政無線もデジタル化になりますと音達距離が広くなりますので今よりは聞こえやすくなると。これ原則で整備を進めておりますが、なお大雨で聞き取りにくかったとか、聞こえなかったというときは、このデジタル行政無線の放送を自主防災組織の会長さん宅の携帯電話から暗証番号を打つと再度放送ができるシステムにもしております。また今回整備に伴いまして、わからなかったらテレフォンサービスですね対策本部にかければ今の放送が何であったかということがわかるようにもなっておりますので、さまざまな方法を取って皆様方全戸といいますか多くの方に情報を提供できる形をとらせていただいております。また放送電波ＦＭ放送もあらゆる放送媒体を調査いたしまして、何が適当で何が松山市で有効に活用できるかというところも今あわせて調査の段階ではありますが、検討させていただいておりますのでそういう形で今進めさせていただいております。

【市長】　私のほうから皆さんに知っていただきたいのは、今はもうデジタル、新しいものに切り替えをしています。４月ごろまでには整備終了するということですので新しくなると思ってください。ＦＭ放送はコミュニティＦＭがあると話が早いんですけども、松山はコミュニティＦＭっていうのは今はありませんので、ちょっとまた別の形で検討してるところです。よろしくお願いします。

【男性】　ではもう１つ、自主防災連合会の活動体制を強化せんといかんのじゃないかと思います。松山市は全地区に自主防災会を発足させたと、それから防災士数は全国一ということで自慢できるんですが、本当に各地区がそういう体制が全国一かいうと私は疑問だと。数はそろえた、形はできたけども実際に活動してる、要するに全員が活動するいうかそういう対応にはなってないということで、行政としては各地区に自主防災だということで任せているのではないかと思います。我々のところも実際やっとんですが、他地区の連合会長の話も聞いとるんですけれども温度差が大きいのが現状です。住民の安心安全というのを自主防災会に任せるんであれば、行政当局の積極的な管理支援が必要、ほっとったらいけないと、ボランティアいうことですねというふうに感じてます。今モデル事業として最大３０万円の助成金、しかし地元負担金が３分の１必要だということで我々のところも来年度は対応しようとしてますが、地元負担金なしでの制度にしてほしいと思っていますがいかがでしょうかいうことと、自主防災会の中心的な役割を担う人たちに消防団に準ずるような教育と処遇を考えてもらえませんでしょうかいうことです。それから粟井地区に安岡避難地があります。しかし災害時の避難場所としては十分ではない。今年度松山市の防災モデル事業として活用して我々も防災設備を充実させたいと考えてますが、市当局としてもそういう点の充実を進めていただくようにお願いしたいということでございます。

【市長】　私のほうから。自主防災組織というもの、私は自主っていうのが大事だと思いますので、この方法をとらせていただいております。皆さん東日本大震災の映像を思い浮かべていただいたら、あれだけの幅広い広大なところが被害を受けた。現実問題、市民の皆さんの安全を守る消防職員がいますけども消防職員が全部ケアできるかといったらそれはとても無理です。今消防職員がいる、消防団がいる。消防団は特別公務員ですからお給料払ってという形になります。そして定員もあります。そして防災士、先ほど言われましたけど防災士っていうのは日ごろは啓発活動をする。いざというときには避難誘導をするっていう大事な方。この方は松山市は以前から大事だということに気づいておりましたので税金で育成をしてまいりました。今１，５５０名、日本の自治体の中では一番多い数字です。二番が大分市、三番が名古屋市です。名古屋は２２５万のまちです。それに５２万の松山が勝ってるというのはどれだけ防災士が多いかっていうのがわかります。何が言いたいかというと、やはり公の人間で全部カバーすることはできないので自主防災組織をつくっていただいて、公の手が来ない段階でも自主的に動いてくださることが大事だと考えて自主防災組織を広げてまいりました。ですのでやはり自主ができることが大事だと思っていますので、以前からもこの形をとらせていただいております。もちろん、もう自主防災組織さん勝手にやってくださいというのではなくて、それは我々行政としてしっかりとした連携ができないといけませんので、足らないところがあったらどうぞ言っていただいたら連携しながら育成をする、いろんなとこで地区で温度差もあるのも聞いてますのでしっかりと育成をしていきたいと思いますので、これからもよろしくお願いいたします。

【消防局企画官】　補助金につきましては、連合会単位３０万円上限で、３分の２の補助という形をとらさせていただいております。地元負担金を若干負担していただいて、地元の自主性とか独立性を促進していただきたいという気持ちもありまして、そういう形をとらしていただいております。粟井地区で１８の町内会がありまして、２３の自主防災組織が結成されておりますので、自主防災組織単位でいろいろ援助していただくような形をとれればと思っておりますが、自主防災組織の連合会長さんに対しましてご協力をよろしくお願いいたします。それと消防団に準ずる教育ですが、消防団は消防機関の一部として常備消防と連携して災害活動にあたらなければなりませんし、普段から教育や訓練などをしておりますので、そういった公設の機関とは一緒の教育はできませんが、各消防署、支署に消防職員おりますので、言っていただきましたらいつでも研修等実施いたしますので、ご連絡していただければと思います。よろしくお願いします。

【男性】　今の政権政党の公約の中の１５５番目に「統合医療推進をします」、１５６番目に「健康都市宣言」という言葉があるんですが御存じでしょうか。統合医療というのは西洋医学一辺倒じゃなくって、有効な医療あらゆるものを取り入れますというんで欧米ではどんどんやってます。日本がちょっと遅れてるんです。健康都市宣言いうのは世界的な流れで、国内でも健康都市宣言された市もあります。今日はどういうことかと申しますと、今日もいろんなロードの話とか、公園づくりとかありました。そういうことも予防医学という点では運動する場ができるわけですから医療費の削減にもつながります。それから地域のつながり、粟井は非常に優れているんですけども、そうしたことも病気にならない環境づくりの１つだと思うんです。それで私お願いしたいのは、よその地区で健康都市を宣言しているところは、縦割り行政ではなくてそれぞれの課で公園をつくるところ、あるいは予防医学の宣伝をするところ、いろんな課が統合して、本当にみんなが安心安全で健康でできるような方策を、市全体として横の連携をとって健康都市宣言をしてほしいんです。それがいろんな税金というか医療費削減につながります。日本全体では、毎年医療費が１兆円上がってると聞いたんですが、松山市も同じように上がっていってると思うんです。それを縦割り行政でなくて、健康都市宣言をしていくという方向で検討してほしいんです、以上です。

【市長】　はい、わかりました。これ市全体のことに関わりますので私のほうでお話をさせていただきます。思いは同じです。実は厚生労働省のデータがありまして、１日国民一人一人が３千歩歩いていただいたら、国全体で２，７００億円の医療費を削減できるというデータがございます。２，７００億円の医療費削減できると、ほかに使えるっていうことがざっくりいうと言えます。今松山市力入れておりますのは、小学校の先生とか幼稚園の先生とか保育園の先生は御存じですけど、「手洗い・うがい・歯磨き啓発ソング」っていうのを出しまして、これもほんとちょっとのお金でできるんですね。これは保健所と教育委員会が連携をしまして、それこそ縦割りじゃなくってつくったものです。ある幼稚園、保育園だったかな、今年インフルエンザが、「手洗い・うがい・歯磨きソング」をつくったので、インフルエンザがかなり抑えられてるっていうデータも出ております。また、予防医療に力を入れていきたいと考えておりまして、私就任してから妊婦さんの個別検診が受けられるようになった。歯医者なんですけども、妊婦さんつわりもあって、口の中をきれいに保つことが難しいんだそうです。そうなると、お腹の赤ちゃんが早産で産まれてくるリスクが高くなるそうなんです。この虫歯の菌は口移しなんかでするとうつりやすいものだそうで、そういうことで予防医療。早産で産まれてくるリスクも避けられるので、妊婦さんの個別歯科検診制度も設けました。また今度３月議会でも予防医療に力を入れた方策を１つ出しております。このように、思いは同じで予防医療に力を入れていきたい。その１つとして、去年の秋、花園町の社会実験をさせていただきましたけども、これは歩く人、自転車の人に配慮した道路の使い方をしましょうというので、花園町の社会実験をさせていただいたんですが、もっと歩いていただこう、もっと自転車に乗っていただこう、そういうふうに配慮したまちづくりをしていけば体を動かすことにもつながります。体の不自由な方も歩きやすくなる、お子さんも歩きやすくなるということで、そういう方向性で松山は進めていこうと思いますんで、まさに思いは一緒だと思いますんでこれからも進めてまいります。

【保健福祉政策課長】　私先ほどの地域包括支援センターのご質問につきまして、説明を急ぎましたんではしょったところがございます。市内の４０地区に対しまして、１０の包括支援センターを設置しております。包括支援センターは出向いていって相談を受けることを基本姿勢にしておりますので、どんどんご遠慮なくご相談ください。以上でございます。

【市長】　今日皆さん長時間ありがとうございました。様々な課題が寄せられました。冒頭申し上げたとおり聞きっぱなしにはしない、やりっぱなしにはしないというのが松山市版のタウンミーティングなので、必ず１カ月をめどに、持ち帰らせていただくことは必ず返事をさせていただきますので、１カ月ほど待っていただいたらと思います。このタウンミーティング３９地区目になりますけども、ちょっと市民の皆さんから感じることがありまして、意外と市役所を敷居が高く感じられてるんじゃないかなっていうのを感じております。最初遊歩道の話とかが出まして市民参画まちづくり課のことを紹介しましたけれども、市役所ってそんなに敷居の高いところじゃないんです。私よく言うのは、市役所は市民の皆さんの役に立つところで市役所じゃなきゃいけないと思ってますので、どうかご相談いただいたら、こういうやり方もありますよとかいうのもお伝えすることができますので、どうぞ遠慮なく市役所に問い合わせていただいたらと思います。また道路のことも、私、皆さん御存じのとおり一市民から出てきた人間ですけども、どこが国道でどこが県道でどこが市道かなんてわからないですよね。これは市に言うたらええんかな、これは県に言うたらええんかな、これは国に言うたらええんかな。そういう場合も遠慮なく市に言ってください。それは県だなと思ったら、私たちのほうから直接お伝えすることもできますので、どうぞ遠慮なく市役所に言っていただいたらと思います。１つだけ。やっぱり要望というのは、もし県のことであれば、我々のほうからちゃんとつなぐんですけどもよくあるのが、行政に市民の方が要望持っていくと、すごい大仰なことに受けとってしまって、「いやいやそこまではできないです」とかいうことになっちゃうんですけど、市民の方は案外そこまでは求めてなくて、「ちょっとこうしてくれたらいいんよ」っていうことを、大仰に受け取ってしまうことがあります。ですので、直接言っていただくと一番伝わりやすいので、縦割りとかいうのでなくて、我々のほうからもつなぎますけども、やっぱり要望っていうのは直接言っていただくのが一番伝わりやすいのかなと感じております。これからも、市民の皆さんの役に立つところ、市役所であり続けたいと思いますので、気楽に市役所に声をかけていただいたらと思います。またタウンミーティング、１巡目で終わりではありません。２巡目もやるつもりでおりますので、またこれからも重ねさせていただこうと思います。本日は長時間ありがとうございました。

――　了　――